

AAF NEWS

VOL.1

2007
WINTER

ご協力をいただいたみなさまにAAFの活動をお知らせします

CONTENTS

NEWS

TOPICS

「日本・ネパール国交樹立50周年記念誌」にAAFの活動が掲載されました

SITE REPORT1

フィリムの2期工事（寄宿舎）が着工しました

SITE REPORT2

カニヤキャンパス・ポカラ「さくら寮」のろ過水槽建設支援を行いました

INFORMATION

AAF Asian Architecture Friendship



NEWS

AAFの「ネパールにおける学校建設支援活動」が2007年度日本建築学会賞(業績)を受賞しました

2003年春にネパールのフィリムに竣工しました Buddha Primary & Secondary School の建設支援活動に対し、日本建築学会より「日本建築学会賞」が授与されました。この学校は日本の多くの方々からの寄付と外務省の草の根無償資金協力により、実現したものです。ボランティア活動については全くの初心者であった私たちを暖かく見守っていただき、ご支援・ご協力いただいたすべての方々に深く感謝の意を表したいと思います。

>次ページに日本建築学会講評文を掲載

Buddha Primary & Secondary School に通う子どもたち

NEWS

AAFの「ネパールにおける学校建設支援活動」が2007年度日本建築学会賞(業績)を受賞しました

日本建築学会講評文を転載します。

ネパールにおける学校建設支援活動

AAF (Asian Architecture Friendship) 殿

これは、建築の専門家が僻地の学校建設のために自主的行動を起こし、結果として国際的にも意義ある成果をもたらした業績である。

場所はネパール北部ヒマラヤ山麓、周辺の集落の中心に位置するフィリム。自給自足の村ではあるが、交通の便が悪いこともあり生活は厳しい。子供たちの識字率や就学率は低いが、きちんとした教育の機会が与えられたら、この地域の将来のために大きく寄与するはずである。そのために必要な学校建築（小・中・高）の実現に貢献できないものか。そうした思いを、アジアの建築についての勉強会を通して抱くことになった建設会社設計部に勤務する有志たち（AAF）は、日常の業務とは離れた活動として計画案を作成し、現地に向かう。しかし、学校をつくるためには、解決すべき問題点をひとつひとつほぐし、克服していかねばならないことが分かった。

ひとつは技術上の問題である。AAFは、地域固有の構法・材料を用いながら、無理のない建設を可能にした。地域の人々との対話を通じて、資材運搬の面で合理的な選択をおこなっている。ここではAAFのメンバー自身が持つ技術的な経験や指導力が、仕事全体を充実したものとしている。もうひとつは、建設経済における問題である。彼らは建設途上で、この地域でこれまでおこなわれてきた国際支援によるプロジェクトが、工程・コスト・労務などの管理の不十分さゆえに、たびたび挫折してきたことを知る。それゆえに彼らは設計監理・施工管理から始まって、資金調達・政府との折衝を含めたプロセス全体のマネジメントを取り組むことになる。

2003年に完成した学校は、AAFの手を離れても村の人々による維持管理・改良が進められている。これは地域に教育のサイクルが根づいたことを示すものであり、建設プロセスのなかで関係者相互の理解が十分であったことを示すものである。なお、AAFの活動はここで役割を終えることなく、継続して活動できるメンバーを育成しつつ、この学校の増築やネパール国内の同様のプロジェクトへと展開している。

以上のようなAAFの活動は、当該地域に活力を蘇らせただけでなく、多くの普遍的な教訓を引き出すものである。第一には、専門家が、所属組織とは一旦線を引いたところで、自発的意思によってその能力を地域社会に還元することの大きな可能性である。AAFにおいては活動組織を必要以上に形式化せず、柔軟かつ責任能力あるものとして運営がなされていることは注目される。第二には、仕事への取り組みの細やかさが、地域社会にも国際的にも信頼ある関係を生み出したことである。AAFは国際支援機関に依存することなくメンバー自身による入念な調査をおこない、また最後まで自らの手間をかけることによって技術的成果の確認をおこなっている。その結果として現地において高い満足度をもたらしたことは、技術者が取り組む地域貢献・社会貢献において重要な要素だと考えられる。

したがって、本業績は、建築分野にとどまらない優れた業績であると評することができる。真に必要とされる場所に、的確な国際支援をおこなうために、どういう姿勢と技能が活かされるべきかが明示されている。建築界として誇りにすべき業績であると考えられる。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。

TOPICS

「日本・ネパール国交樹立50周年記念誌」にAAFの活動が掲載されました

2006年の日本とネパールの国交樹立50周年を記念して、日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会より、ネパールで活動を行っている56団体の2006年度の活動をまとめた記念誌が本年11月に発刊されました。

AAFの活動としては、日本ネパール女性教育協会と提携して建設支援を行ったポカラの女子学生寮「さくら寮」の記事等が掲載されました。

掲載された記事（抜粋）

AAF (Asian Architecture Friendship) の2006年の活動
～カニヤ・キャンパス・ポカラ「さくら寮」建設支援他～

■ AAF (Asian Architecture Friendship)とは

2000年、竹中工務店大阪本店設計部の有志を中心に発足した民間ボランティア団体です。建築を専門とする職能を活かして、ネパールのフィリムでの学校建設(2003年竣工)を皮切りに、アジア地域の開発途上国における学校等の施設建設支援を中心とする活動を行っています。

■カニヤ・キャンパス・ポカラ「さくら寮」建設支援

2006年8月6日、日本ネパール女性教育協会(NINFEA)とカニヤ・キャンパス・ポカラとの共同プロジェクトによる学生寮「さくら寮」が竣工しました。AAFはこの「さくら寮」の建設支援として設計、工事監理、コスト管理等について協力をさせていただきました。

【建築概要】

建物名：	カニヤ・キャンパス・ポカラ さくら寮	1. 建物は構造的な安定性を考慮し、できるだけ平坦地に計画。
建築地：	Nadipur-3, Pokhara, Nepal	2. 建物の配置にあたり寮室・食堂は東側への眺望を重視。
構造規模：	鉄筋コンクリート造 地上3階	3. 管理人室、ガストルームは採光を考慮し、南側へ配置。
延べ面積：	610.00 m ²	4. 自然採光、自然換気を基本とし、給湯は太陽光を利用。
最高高さ：	9.99m	5. 寮室は2人室を10室(20名収容)で計画。
工期：	2005年7月～2006年8月	6. 外装、内装ともテーマカラーはオバールの赤土の色。



1階 食堂（ガラスには防犯フィルムを貼っています）



「さくら寮」 断面図と立面図

SITE REPORT 1

from Philim in NEPAL

フィリムの2期工事（寄宿舎）が着工しました

Buddha Primary & Secondary School の開校以来、徒歩しか交通手段のないこの地域で遠方から通う子供たちのための寄宿舎の計画を進めてまいりましたが、ようやく本年4月に着工の運びとなりました。とは言え、資金的にはまだまだ厳しい状況で、計画どおりに全て完成させるにはあと約500万ルピー(約900万円)必要です。さしあたって現段階では、第1ステップとして寄宿舎3棟の完成を目指しています。



2期工事配置図



木材の運搬



木材のチェック



寄宿舎3棟の基礎工事が完了

SITE REPORT 2

from Pokhara in NEPAL

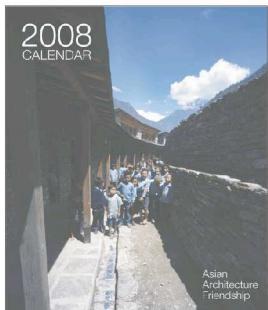
カニヤキャンパス・ポカラ「さくら寮」のろ過水槽建設支援を行いました

2006年8月に竣工したポカラの「さくら寮」で、上水道の水量が十分になく、寮生がシャワーを浴びると水が出なくなることがよくあったため、近くの運河から許可を得て水を引き、ろ過して生活用水として使用することにしました。そのための「ろ過水槽」の建設についての技術支援をAAFで行いました。



完成したろ過水槽

INFORMATION



卓上型・CDケース入り
サイズ12.5cm×14.1cm×0.9cm

2008年AAFカレンダー ができました

2004年、2006年に続き、2008年のAAFカレンダーができました。今回は日本建築学会賞受賞を記念して、Buddha Primary & Secondary Schoolをさまざまな角度から捉えた写真で1年を構成してみました。

ご希望の方は同封の払込取扱票の通信欄に「カレンダー希望」とご記入の上、1口1000円+送料（下記参照）の寄付をお願いいたします。寄付1口につき、カレンダーを1部お送りさせていただきます。

>>> 送料

1口:200円 2口:240円 3~4口:390円 5口以上:580円

※払込取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入して下さい

アジアに学校等をつくるための 寄付にご協力ください

AAFは、学びたくても学ぶことができないアジアの子どもたちのために学校と寄宿舎等の教育関連施設をつくるボランティア活動を推進しています。現在、2003年に開校したネパール・フィリム村のBuddha Primary & Secondary Schoolの隣接地に遠隔地から通う子供たちのための寄宿舎の建設を進めていますが、計画どおりに全ての施設を完成させるにはあと約500万ルピー(約900万円)必要です。(SITE REPORT1参照)

皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

>>> 寄付の方法

同封の払込取扱票の通信欄に「寄付」とご記入の上、お振込ください

電子メールをご利用可能な方はE-mailアドレスを併記ください
※払込取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入して下さい

AAF会員を募集しています

AAFの活動は多くの皆さまからのご支援・ご協力によって成り立っています。

このたびAAFでは会員制度を設けました。これは活動の主旨にご賛同いただき、継続してご支援いただける方にAAFの会員になっていただき、その会費を支援活動の資金に充当する制度です。会員はAAFの活動における資金ボランティアと位置付けられ、具体的な活動やその他の責任は求められていません。

会員になっていたい方には季刊報告「AAF NEWS」をお送りさせていただきます。また初回の特典として、1月末までにご入会いただいた方には2008年のAAFカレンダーをもれなくお送りさせていただきます。

ぜひとも多くの皆さまの入会をお待ちしております。

>>> 入会方法

同封の払込取扱票の通信欄に「入会希望」とご記入の上、下記の会費をお振込ください

電子メールをご利用可能な方はE-mailアドレスを併記ください

>>> 会費

一般会員：1口 5,000円（年額）

法人会員：1口50,000円（年額）

※払込取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入して下さい

「ヒマラヤに学校を建てよう！ 建築家のボランティア奮闘記」 が購入できます

AAFの学校建設支援活動のプロセスを綴った単行本「ヒマラヤに学校を建てよう！建築家のボランティア奮闘記」（彰国社）が同封の払込取扱票で購入できます。ご希望の方は通信欄に「本希望」とご記入の上、1冊2000円をお振込ください。



※払込取扱票には住所・氏名・電話番号を必ず記入して下さい

編集後記

AAF季刊報告「AAF NEWS」を発行することになりました。私たちの活動を少しでもご理解いただければ幸いです。

素人作成の誌面ですが、どんどんグレードアップをはかりたいと思っていますので、皆さまのご意見、ご感想をお待ちしております。

これからよろしくおつき合いください。T